

11月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年11月末現在〕

令和4年12月12日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てで悪化した。

業種別では、製造業は「景況」変化なし、「売上高」、「収益状況」は悪化した。非製造業は「売上高」、「景況」、「収益状況」の全てで悪化した。

原材料等の値上がり分を販売価格に転嫁する動きは見られるが、幅広い業界で度重なる値上げへの対応に苦慮しており、収益の悪化が続いている状況である。

景況DI

製造業は、前月比増減なしの▲30.8ポイント、非製造業は、前月比8.4ポイント悪化の▲29.2ポイント、全体では、前月比4.0ポイント悪化の▲30.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比15.4ポイント悪化の▲7.7ポイント、非製造業は、前月比25.0ポイント悪化の▲8.3ポイント、全体では、前月比20.0ポイント悪化の▲8.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲46.2ポイント、非製造業は、前月比12.5ポイント悪化の▲45.8ポイント、全体では、前月比10.0ポイント悪化の▲46.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年11月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品製造業	学校給食パン	11月に一部の自治体において原材料高騰などの影響を鑑みて、加工賃の引上げを年度途中にも関わらず実施していただいた。前例のないことで、大変ありがたい。
		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県10月の清酒課税移出数量は、前年同月比93.3%であった。本格焼酎についても、前年同月比99.8%であった。コロナ禍による落ち込みは下げ止まったように思われるが、個人消費は不安定な状況であり月ごとの実績にバラツキがある。コロナ禍前は、精米率70%以上の高価格酒（特定名称酒）の割合が課税移出数量の中で47%であったが、現在56%で普通酒と逆転している（酒は普通酒と高価格酒の2つに分類される）。普通酒が減少している理由は、飲食店・ホテル等の需要がコロナ禍により減ったことが考えられる。又、家飲みにて特定名称酒が日本酒好きに飲まれていることと、消費者ニーズの変化で飲食店でも量より質を重視した経営に転換してきていることが考えられる。地酒にとっては、品質の差が出る特定名称酒が増加することは競合上や収益での好材料である。 ○県内当業界について ・茨城県庁の企画で11月1日水戸駅地酒バーがリニューアルオープンした。地酒の情報発信の拠点として当組合でも協力をしていきたい。 ・11月9日に関東信越国税局酒類鑑評会表彰式が行われ、当県より吟醸酒部門6蔵、純米吟醸酒部門10蔵、純米酒部門3蔵が優秀賞を獲得した。当県は5年連続で入賞率第1位であった。
		納豆	業界全体として一般消費者向けメーカーも土産品向けメーカーも先月同様の傾向が続いている。ただし、大きな変化ではないものの、一般消費者向けメーカーでは新型コロナウイルス発生初期の在宅需要分が減少し、結果として過去の在宅需要に由来する業界全体の生産体制強化により、メーカー毎に認識の差はあるものの、一部の事業者はマーケットへの過供給という厳しさを感じているようである。一方、土産品向けメーカーは来月から値上げが予定されており、収益の向上が期待される。また、先月に引き続き秋の行楽シーズンと全国旅行支援等の相乗効果によると見られる売り上げ増加が今月も継続しており、今後も期待されるところである。ただし、中々コロナ禍前の水準には届かないのが残念なところである。特に、平日の売上げが思ったほど伸びていないようである。また、懸念材料としては人的流動の増加による感染者増であり、仮に公的抑制を行わないとしても、市民の社会活動の内、直接生活に影響が少ない観光という行動が、市民の良識として自主的に制約される可能性を考えざるを得ない。これは社会全体で見れば感染抑制への適切な行動であるが、観光関連事業者としては売り上げ減少に繋がってしまうことが心配される事態である。やはり、先月同様経営環境の将来的変化の可能性が正負両極端であり、将来への経営判断への迷いは大きい。また、長期間続く不況により資金繰りも厳しいメーカーもあるようである。
		菓子	コロナ禍での感染者はまだ多いが、感染対策を講じながら、組合員の経済活動は健闘しているように感じる。しかし、物価高・経費高で消費者は可処分所得が少なくなっており、店側は原材料高・経費高でも販売価格はそれほど上げることができず、利益を出せない。
		漬物	原材料等の益々の値上げラッシュは、コストアップした分を販売価格に転嫁できていないので、経営は厳しいものとなっている。
	繊維工業	袋物	先月と状況が変わり、発注が止まってしまった。発注者の春～夏物の製品企画が、材料費の高騰により、様子を伺っている状態だからなのだろうか。今後の仕事量に影響が出る可能性が高い。
	木材・木材製品	製材	・構造材、造作材、羽柄材は先月に引き続き桧・杉ともに価格は弱含み（価格が安くなろうとしている状態）で推移した。 ・輸入材も、米材（アメリカ産木材）と欧州材（ヨーロッパ産木材）ともに弱含みで推移した。 ・原木の入荷は順調、価格については杉は保合、桧は高値であった。
		県北地区プレカット	11月の加工実績は、前月同様、目標の60%であった。12月の加工予定は、中旬くらいまで予定が入っているが、20日以降はまだ空いている。材料価格は横ばいである。
		県央地区プレカット	11月は機械ラインで加工が出来ない作業も多く、忙しい状況となった。しかし、新規見積物件の依頼件数が少なく、12月以降の加工に影響が出そうな状況である。人員の募集をしているが、応募がない状況が続いている。
	紙・紙加工品	段ボール	受注数量は前年同月並みであり、年末の忙しさがコロナ禍前に戻りつつある。ただ、12月から主原料が値上がりするため、今後の収益状況が心配される。お客さまに価格の改定をお願いするが、それがいつ決まるか先が見えない状況である。
	印刷	総合印刷	原油価格をはじめとしたエネルギーコストや原材料価格の高騰の中、そのコスト上昇分を販売価格分に十分に転嫁できていない状況が続いている。従って、収益状況、資金繰りは依然として厳しい。
	窯業・土石製品	コンクリート製品	共同販売製品の内、歩車道境界ブロックLE・LB、長尺U字溝用蓋、深溝U字溝、管渠型（かんきょがた）側溝の11月1日適用茨城県土木部資材単価が5月1日の同単価と比べると約10%アップした。また、グレーチング盗難防止金具（側溝の蓋の盗難防止のために付ける金具）も約5%アップした。
		陶磁器	秋のイベント時期も昨年と比較すると人の流れが目立ったように感じる。笠間の菊まつりも、人出を増やしていた。この流れで何とか新しい年を迎えたい。
	鉄鋼・金属	鉄鋼	受注量は前年同月と同程度であった。設備関連部品・機械部品等の業種は増加傾向、自動車関連部品は落ち込んでいる状態である。今まで好調だった、建築資材については、受注量が減少傾向である。 資金繰りは、各社加工単価の値上げの効果が出てきているが、原材料・資材の高騰があるので、まだ好転とは言えない状況である。 金属材料は全て値上げ傾向にあり、高値で推移している。工業薬品についても、値上がりした後、高値の状態が続いている。 燃料など石油製品や電気料金の値上がりが資金繰りに悪影響を及ぼしている。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年11月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上状況は前年同月比で、5社増加で2社減少であり、全体増減率は101%であった。主要取引先からの受注が回復した事を主要因として、売上高は前年同月比101%となった。組合員企業では、正社員数は変わらないが、派遣社員数が増加している。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	売上は安定的になってきたが、未だ部品供給の面で不安が払拭できていない。
非製造業	卸売業	水産卸	精算所取扱高は前年同月比2.82%減少した。 ほぼ全ての商品単価が上がったため、販売数量はかなり減少している。また、年末商材の入荷状況を昨年と比較すると、かなり減少しており、今後も厳しい状況が予想される。 当組合運営の冷蔵倉庫についても、電気料金の高騰、冷却設備用部品の値上がりなど、ほぼ全ての経費が上昇しており厳しい状況である。
		米麦卸売業	令和4年産米の作況指数（お米の収穫量を示す指数）は平年並みとなっているものの、飼料用米等への作付転換が進み、不足感からか、主食用米の価格が上昇している。
		セメント卸	袋セメントの11月出荷実績は、前年同月比96.6%と若干の減少となった。 10月値上げ直後の需要減少（前年同月比71.7%）は改善された。 茨城県北部は案件が少なく需要が低迷しているが、県央地区は改善傾向がみられる。 県南地区においては、引き続き圏央道沿線での大型物流倉庫やつくば市周辺でのマンション建設等が進められているが、袋セメントの需要を取り込めていない状況。 今後、県南地区「圏央道インターパークつくばみらい」の造成事業化での需要が期待される。
	小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比103.7%、客数は同102.5%であった。前年同月の売上を確保できた店舗は35.7%となった。コロナ禍との付き合い方に慣れて来たのか、客足が戻って来たように感じている。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店+新店（アミューズメント1店舗）の売上（客数）前年同月比は97%（97%）となり売上は昨年同月より下がった。主要業種では、食品95%（95%）、飲食107%（110%）、ファッション95%（98%） 鮮魚専門店がリニューアルの為、11/7～11/16を店休日とした影響もあるが、飲食業種以外は昨年より不調となった。11/15より笠間市によるマイナンバー申請ブースが開設され、お客様への更なるサービス向上に努めている。 12/5より商工会にてプレミアム商品券の販売・利用が開始された。
		県南地区共同店舗	イベント、催事等の開催が回復して来たものの、再度感染拡大の懸念により予定していた催事等が中止になってしまい、SCとして客数回復が依然として厳しい。 また、夏場の水道光熱費の支払いが10月から始まり、11月度も更に高騰した電気、重油等の支払いで資金繰りが厳しい。組合員の中では、やはり飲食店の水道光熱費、材料等の高騰で収益が厳しく収益が悪化している。
		家電	原材料価格や物流費の高騰に伴う影響、加えて、部材不足、操業度低下等での景気不振度が増している。また、新型コロナウイルスや少子高齢化で、世の中の変化が目立つ。地域の電気屋さんには苦勞しているが、お客様に支えられて健闘している。中小企業の支援を望む。
		燃料小売	ガソリンの販売価格は依然として高止まりをしているが、政府の燃料油価格激変緩和策が継続しており、急激な価格上昇や現場の混乱はなかった。全国旅行支援が行われ、消費行動も上昇し、燃料の販売数量も前年同月よりも増加した。
		中古自動車	11月は販売台数が前年同月比88.1%、販売価格が同95.1%と共に低下したため、売上高は同83.8%と大きく落ち込んだ。中古車流通市場は今年に入ってから、タマ不足による価格高騰が続いていたが、10月からは輸出低迷や小売不振の影響で流通価格が一気に落ち込んだため、中古車業界全体が厳しい環境に陥っている。
		食料品	当業界は食品流通業であり、組合員の売上に関しては、コロナ禍の中で食のライフラインを担っている。11月は売上が前年同月比で100%となった。要因としては、前月同様に各メーカーから食料品の値上げがあり、販売数量は前年同月を割っているが、売価の値上げによる単純な売上増加となっている。そうしたことから、根本的な厳しい状況は改善されていない。このような状況でも、前月同様、11月も総菜部門の売上が前年同月比を上回ることができた。今後も強化していく。新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にある。今後も来店客に安心・安全な店であるように感染対策は万全に行っていく。
		野菜・果実	11月の取扱高は、野菜果物合計で前年同月比99.0%の取扱高となった。本年は昨年の11月と比べて営業日が1日少なかったため、実質的には微増と言える。 野菜に関しては、比較的順調な入荷が進み、全体的に単価安の傾向。県内では大根や白菜を中心に露地栽培も順調で、自家栽培やお裾分けで供給が間に合い、売上の伸び悩みが各所から聞こえた。 果物に関しては、りんごやみかんの販売が本格化し始めているが、単価は高めである。特に、みかんは今年は裏年（収穫量が非常に少なくなる年）だと言われており、出荷量は少ないが、今シーズンの早生（わせ）の地域の商品は市場で売れ残りが目立つが、単価は高くなっている。
	商店街	筑西	新型コロナウイルスの影響及び物価高騰、水道光熱費の高騰と売上が減少しているなか、最低賃金が増加し、支出が増加してしまう最悪の状態である。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)		組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	サービス業	自動車整備	当月の組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）は、前年同月比で自動車・軽自動車ともに横ばいであった。（普通車101.23%、軽自動車100.73%）
		ホテル・旅館	行動制限のない秋の観光シーズンとなり、全国旅行支援の好影響により、多くの宿泊施設はこれを利用した観光・宿泊客が途切れることなく、観光客、ビジネス客ともに比較的回復基調に向かうことが出来た。（スポーツ合宿主体の施設などあまり恩恵を受けない施設もある。）しかし、支援策に対応できる十分な時間がなかったこともあり、雇用について必要な人員が確保できず、予約が入っても最低限しか受けられない施設も出ている状況である。水道や電気・ガス等エネルギー価格、食材等原材料の高騰や物価高によるコスト増については改善の兆しは見えず、結果として収益が上がらない施設も多い。
	建設業	総合	年度末完成に向けた工事発注は出揃った。これから工期内完成に向けて忙しくなるが、人手不足は依然として深刻な状況が続いている。
		電気工事	材料値上がりや資材不足による納期遅れ等により収益が圧迫されている。
	運輸業	軽貨物運送	当月の組合員数は111名、車輛台数は144台で前月と比較して増減なしであった。また、運送売上高については、前年同月比109.4%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は6,817名、車輛台数8,089台で前月と比較して29名減少、28台減少であった。
		県北地区一般貨物	主要顧客の動向について、出荷物量は製品毎に物量増・物量減と違いがあるが、全体としてはほぼ昨年並であり、売上高もほぼ横這い。燃料価格も、依然として高値で推移しており、収益も厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食増加要望
	納豆	先月同様、全国旅行支援の継続・拡充と、もしコロナの影響によって観光関連業界の不況が発生した場合の補助を期待する。また資金繰りに対する金融支援も期待される。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。また、県内で活動をPR希望の組合や団体様を紹介して頂けると幸いです。
	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・燃料油価格激変緩和策の継続 ・新型コロナウイルス対策
建設業	総合	人手不足の状態でも年度初期は仕事不足が予測される。更なる公共工事の発注平準化、それに加えて4.5.6月実施工事の2.3月発注をお願いしたい。

月次景況調査 11月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比
景 況	▲ 30.0	▲ 26.0	▲ 4.0	▲ 30.8	▲ 30.8	0.0	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 8.4
売 上 高	▲ 8.0	12.0	▲ 20.0	▲ 7.7	7.7	▲ 15.4	▲ 8.3	16.7	▲ 25.0
収 益 状 況	▲ 46.0	▲ 36.0	▲ 10.0	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 7.7	▲ 45.8	▲ 33.3	▲ 12.5
販 売 価 格	32.0	30.0	2.0	23.1	7.7	15.4	41.7	54.2	▲ 12.5
取 引 条 件	▲ 24.0	▲ 20.0	▲ 4.0	▲ 26.9	▲ 26.9	0.0	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 8.3

中小企業月次景況調査(令和4年11月)DI値(前年同月比)

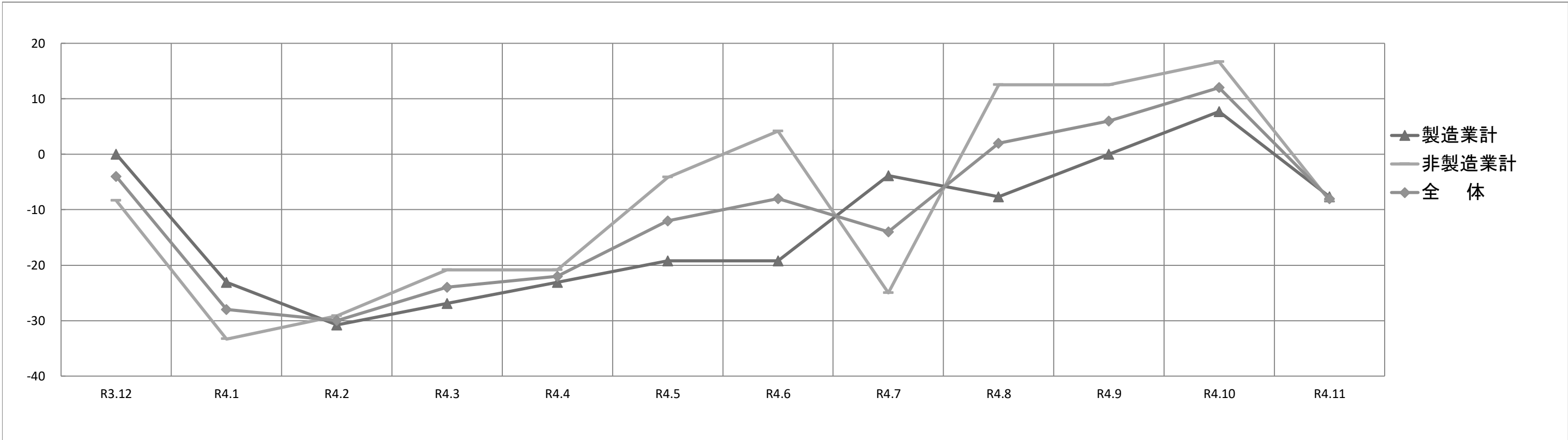
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)													
			増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数						
製造業	食料品	△ 16.7	1	3	2	6	△ 50.0	0	3	3	6	50.0	3	3	0	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 16.7	1	3	2	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 50.0	0	3	3	6
	繊維工業	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5	60.0	3	2	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	33.3	1	2	0	3	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	製造業計	△ 7.7	5	14	7	26	△ 7.7	2	20	4	26	23.1	8	16	2	26	△ 26.9	0	19	7	26	△ 46.2	1	12	13	26	△ 42.3	0	15	11	26	△ 7.7	3	18	5	26	△ 7.7	0	24	2	26	△ 30.8	1	16	9	26
非製造業	卸 売 業	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	1	1	1	3	100.0	3	0	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3					0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小 売 業 (商店街含む)	△ 8.3	3	5	4	12	0.0	0	12	0	12	33.3	6	4	2	12	△ 33.3	0	8	4	12	△ 50.0	0	6	6	12	△ 41.7	0	7	5	12					△ 16.7	0	10	2	12	△ 33.3	0	8	4	12	
	サービス業	50.0	1	1	0	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0					0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	建 設 業	△ 20.0	0	4	1	5					40.0	2	3	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	0.0					0	5	0	5	0.0	0	5	0	5		
	運 輸 業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0					0	1	1	2	0.0	0	2	0	2		
	非製造業計	△ 8.3	5	12	7	24					0.0	1	13	1	15	41.7	12	10	2	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 45.8	0	13	11	24	△ 25.0					0	18	6	24	△ 16.7	0	20	4	24	△ 29.2	0
全 体		△ 8.0	10	26	14	50	△ 4.9	3	33	5	41	32.0	20	26	4	50	△ 24.0	0	38	12	50	△ 46.0	1	25	24	50	△ 34.0	0	33	17	50	△ 7.7	3	18	5	26	△ 12.0	0	44	6	50	△ 30.0	1	33	16	50

D I 値推移表（R3. 12月 ～ R4. 11月期）

《売上高の推移》

前年同月比	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11
食料品製造業	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 83. 3	▲ 66. 7	▲ 50. 0	▲ 16. 7	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 16. 7	▲ 16. 7
製造業（食料品製造業以外	10. 0	▲ 10. 0	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 20. 0	▲ 10. 0	10. 0	0. 0	10. 0	15. 0	▲ 5. 0
製造業計	0. 0	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 26. 9	▲ 23. 1	▲ 19. 2	▲ 19. 2	▲ 3. 8	▲ 7. 7	0. 0	7. 7	▲ 7. 7
卸売業	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	33. 3	0. 0	0. 0	▲ 66. 7	0. 0	66. 7	0. 0	▲ 66. 7
小売業（商店街含む）	▲ 16. 7	▲ 50. 0	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 33. 3	▲ 25. 0	0. 0	▲ 16. 7	8. 3	▲ 8. 3	0. 0	▲ 8. 3
サービス業	0. 0	▲ 50. 0	0. 0	50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	50. 0	50. 0	50. 0
建設業	0. 0	▲ 20. 0	▲ 20. 0	0. 0	▲ 40. 0	20. 0	0. 0	▲ 20. 0	20. 0	0. 0	40. 0	▲ 20. 0
運輸業	50. 0	50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	50. 0	50. 0	▲ 50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	50. 0
非製造業計	▲ 8. 3	▲ 33. 3	▲ 29. 2	▲ 20. 8	▲ 20. 8	▲ 4. 2	4. 2	▲ 25. 0	12. 5	12. 5	16. 7	▲ 8. 3
全体	▲ 4. 0	▲ 28. 0	▲ 30. 0	▲ 24. 0	▲ 22. 0	▲ 12. 0	▲ 8. 0	▲ 14. 0	2. 0	6. 0	12. 0	▲ 8. 0

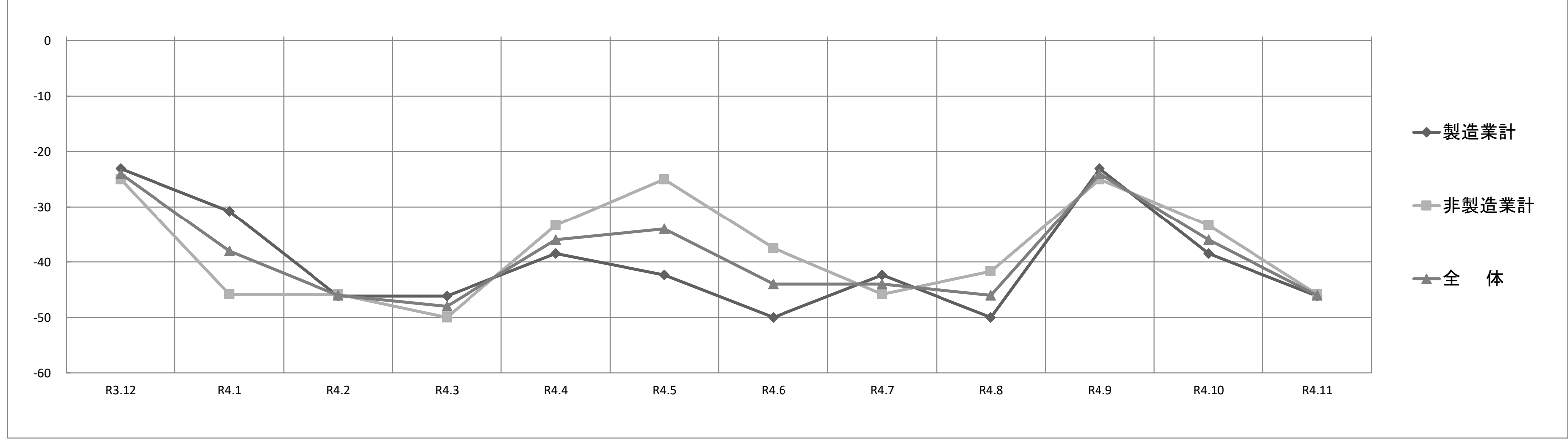
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11
食料品製造業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 83. 3	▲ 66. 7	▲ 83. 3	▲ 66. 7
製造業（食料品製造業以外	▲ 15. 0	▲ 25. 0	▲ 35. 0	▲ 35. 0	▲ 35. 0	▲ 40. 0	▲ 45. 0	▲ 35. 0	▲ 40. 0	▲ 10. 0	▲ 25. 0	▲ 40. 0
製造業計	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 46. 2	▲ 46. 2	▲ 38. 5	▲ 42. 3	▲ 50. 0	▲ 42. 3	▲ 50. 0	▲ 23. 1	▲ 38. 5	▲ 46. 2
卸売業	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	0. 0	0. 0	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	0. 0	▲ 66. 7	▲ 66. 7
小売業（商店街含む）	▲ 33. 3	▲ 58. 3	▲ 41. 7	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 25. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 41. 7	▲ 50. 0
サービス業	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0	0. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0
建設業	0. 0	0. 0	▲ 40. 0	▲ 20. 0	▲ 40. 0	▲ 40. 0	▲ 60. 0	▲ 40. 0	▲ 60. 0	▲ 40. 0	0. 0	▲ 40. 0
運輸業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	0. 0
非製造業計	▲ 25. 0	▲ 45. 8	▲ 45. 8	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 37. 5	▲ 45. 8	▲ 41. 7	▲ 25. 0	▲ 33. 3	▲ 45. 8
全体	▲ 24. 0	▲ 38. 0	▲ 46. 0	▲ 48. 0	▲ 36. 0	▲ 34. 0	▲ 44. 0	▲ 44. 0	▲ 46. 0	▲ 24. 0	▲ 36. 0	▲ 46. 0

《収益推移グラフ》

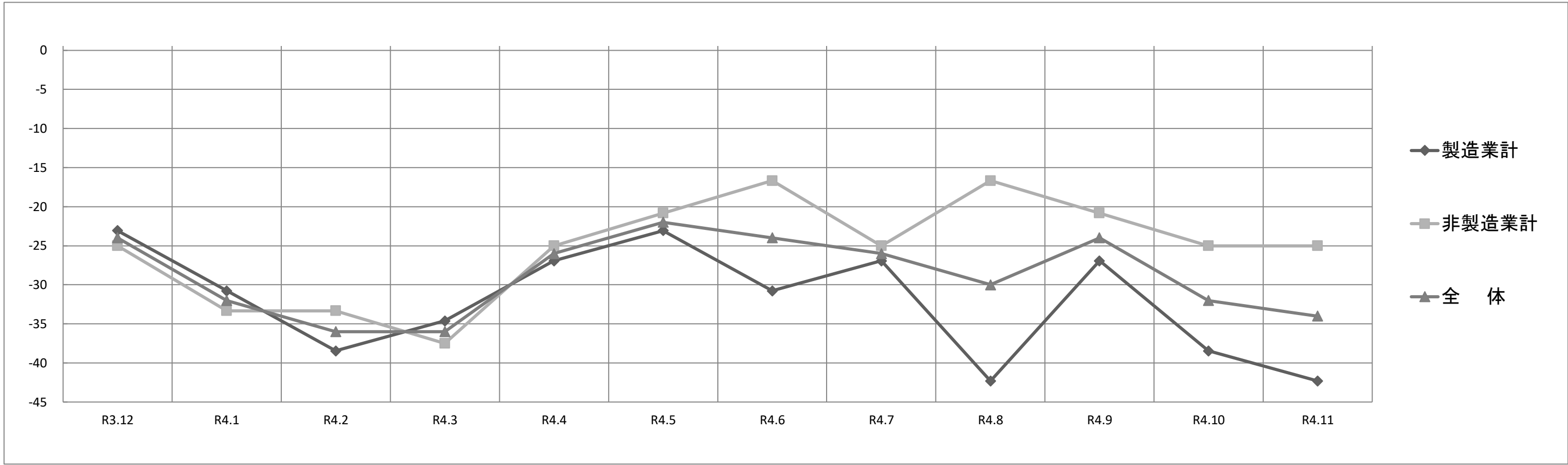


D I 値推移表（R3. 12月 ～ R4. 11月期）

《資金繰りの推移》

前年同月比	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7
製造業（食料品製造業以外	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 26.9	▲ 38.5	▲ 42.3
卸売業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業（商店街含む）	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 41.7
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 25.0
全体	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 24.0	▲ 26.0	▲ 30.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 34.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業（食料品製造業以外	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 11.5	▲ 38.5	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 46.2	▲ 42.3	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 30.8
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業（商店街含む）	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 33.3
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0
建設業	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 60.0	▲ 20.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 45.8	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 20.8	▲ 29.2
全体	▲ 14.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 48.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 36.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 30.0

《景況推移グラフ》

